

学校名 志木市立志木第二中学校
所在地 志木市館1-3-1
電話 048-473-2379

1 本校の概要

本校は、昭和48年に開校し今年度42周年である。今日まで本校は、保護者、地域と一体となり社会に貢献する多くの人材を輩出している。保護者、地域住民の教育に関する認識や関心は非常に高く、学校に対して協力的である。それに応えるため、本校独自の読書活動を展開し、感性を磨き、語彙を増やすとともに言語能力・表現力を培っている。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

読書活動の充実ならびに豊かな情操の陶冶

(2) 実践の概要

本校では、「聞くことは情景や心情を思い描くことのできる子を育て、ひいては心を育てることにつながる」また、「読書へのきっかけづくりになる」という考えのもと、平成22年2月から図書ボランティアによる読み聞かせを取り入れてきた。その他、読書推進活動ならびに言語活動の充実を図りつつ、心を落ち着かせる時間をもたせるという目的から、朝読書や視写にも取り組んでいる。

ア 朝読書

朝の10分間、全校統一の時間を設けて朝読書の時間を設定し、静謐な時間の中で各自が選んだ本を読む。授業に臨む前に読書の時間を設けることで、心を落ち着かせ、集中力を高めることができています。そのような時間を設けることで、基本的な生活習慣が定着している。また、普段本をあまり読まない生徒も本を選んで読むきっかけとなり、読書推進活動につながっている。

イ 視写

視写ワークならびに本校独自のプリントを使用して、週に1回、10分間の視写を行っている。静かに書き写すことで、読み書きの力の育成と、心を落ち着かせる効果が期待できる。また、文の構成や語彙力の向上にも効果が表れている。

ウ 図書ボランティアによる読み聞かせ

保護者や地域のボランティアの方々を募り、読み聞かせを定期的に行っている。読んで聞かせたい本の中

から聞かせたい部分を選び、10分間で行っている。図書室との連携を図り、読み聞かせで取り入れた本を目立つところに置くなどして、積極的な読書推進活動につながっている。

<例 3年生読み聞かせ図書(9月)>

書名	著者名
『やまんばのにしき』	松谷 みよ子
『太郎物語』	曾野 綾子
『武道的思考』	内田 樹
『いわずにおれない』	まど みちお
『蛙餅』	三遊亭 円窓



3 成果と今後の課題

現代の日本人の約47%が一日に全く本を読まないという結果が出ている。しかし本校では、朝読書の習慣により、本がより身近になり、読書を好む生徒が増え、休み時間も本を読んでいる生徒が数多く見られる。図書室に通う生徒も増えてきたように感じる。また、視写においては、中学校時代に読ませたい名文を選んでいたので、読み書きの力と集中力が少しずつ身に付いてきている。

読み聞かせを実施した後の生徒の反応に、「今まで読まなかったような本に興味をもちました。」「読み聞かせで続きが気になり、図書室に通うことが多くなりました。」「心が落ち着くので良い時間を過ごせています。」などの反応があり、心の安定、読書の幅を広げることにつながっているといえる。

今後の課題としては、ボランティアの方々の確保や効果の検証や広報等、学校側のコーディネートの工夫が要諦として挙げられる。また、教員とボランティアの方の読み合わせの時間の確保が難しくなってきているので、円滑な運営を図る必要があると考える。